

あんしん
取材班が行く

第7回 越後妻有アートフェスティバル2018 大地の芸術祭

を訪ねて

過疎高齢化の進む
豪雪地・越後妻有(へ
十日町市、津南町)を
舞台に、2000年
から3年に1度開
催されている世界最
大級の国際芸術祭。
本年は7月29日、
9月17日まで開催。
アート作品数は37
8点。うち過去に制
作された恒久作品は
206点。今年の大
地の芸術祭のテーマ
は「方丈(ほうじょう)
四畳半」。総合ア
ロデューサーの北川
フラム氏は「この芸
祭の作品の特徴は、
地域に根付いた匂い
をアーティストが嗅
ぎ取ってできたもの
いまこそ立ち戻りた
いのが中世。日本の
中世とは、戦争に飢
饉、災害が頻繁に起
こる荒れた時代。こ

の時代に生まれたの
が鳴長明。彼は末端
貴族に生まれながら
趣味の琵琶や歌詠み
を極めた方丈(四畳半
晩年は方丈(四畳半
ほどの広さ)にこもる
小さな方丈から乱世
を覗き世界を映し出
した。今期の芸術祭
を通して「遊びこそ
人生である」と語っ
ていく。と語って
る。

※ 鳴長明(かものちやうめい・1155~1216)日本の歌人・随筆家。代表作「方丈記」

ツフル、地元の高
男性6人でのツア
1番目は「妻有田
文庫」で知られる棟
研究で知られる棟
田中文庫の蔵書の寄
贈を受け、2007
年に旧公民館を改修
し設立された。2番
階には上田文庫の2
部屋がつけられて、
m横54mの縦18
が絵の裏に水墨画
が現れた。この水
枯草の枯木を貼っ
ると、何となく和紙
影絵の仕組みを用
いて、この作品は驚
いた。この作品は中
側の物語。作者は
3番目に行くと、こ
ろはかたり山奥。作
品目は「十日町の枯
高台に太い杉の木
かどつしりとある。

道しるべに現れて木
の根っこが現れて
いる。杉の根を張っ
て密度のある根を張
ているのだ。根を張
ても見えない。誰
もが木の根っこを
杉の木の根っこを
土を掘り起こし、根
を露見させる作品。
最初は何これ？
と思うが、よく見る
と素っぴん。着眼点
の秀逸な作品。作者
は竹腰耕平。4番目
に訪ねたところは「
枯木又アプロジェクト」
旧枯木又分校を中
心に京都精華大学有志
が取り組む持続的な
校庭には円型に稲
が植えられ、稲
5番目は「十日町市
陸上競技場」の
霧神社。社殿の中
直経18mほどの地球
儀が右回転している。
作品名は「アトラス
の哀歌」。作者はエ
・マリクス。住居
・フランクス。政
命を経験した。放浪
マ・亡命した。放浪
に紙と移動をテ
マに紙と移動をテ

いて繊細ではない地
球儀を作った。社殿
上りの外の戸を閉め
て観る。まさに芸術
6番目は、中条駅前広
場にある大きな岩2つ
作品名は「Repetitive
Vegetables」。作家は
目という日本人作家
人。森敏子さんの解説
で「本物の岩ではない
はず」と近寄って叩
いてみるとFRP。7
番目は「イン会場の越
後妻有里山現代美術館
「キナレ」の中に入っ
てみると正面に大きな
回廊に囲まれた池があ
る。スタツフが2階に
上って左の中央から
池を眺めて下さい。と
言っている。言われる
まま上っていき、鏡
絶句。建物の鏡像が
複層化している。まさ
に現象に気がつく。ま
界だ。トリックアートの
像は完全に一致してい
る。現代美術の傑作。
作家は地域の集落で
生活しながら作品を制
作している。そこには
潤いがある。勇気と



十日町観光協会前受付 ▶ 裏側の物語(正面) ▶ 裏側の物語(裏面) ▶ 十日町の木 ▶ アトラスの哀歌 ▶ Repetitive Vegetables ▶ キナレ「穴」

